登録医療機関御中

中国労災病院
Chugoku Rosai Hospital

地域医療連携News

第183号
令和5年7月

平素より中国労災病院が大変お世話になり、誠にありがとうございます。
地域医療連携News第183号を発行致しました。今後とも連携の程よろしくお願い申し上げます。

中国労災病院理念

働く人と地域の人のために患者中心の良質な医療を提供します。

中国労災病院の基本方針

○個人の尊厳と権利を尊重し、高度で安全な医療を推進します。
○地域の医療機関と連携し、救急・急性期から慢性期までの一貫した医療を実践します。
○最新の医学に基づいた専門的な医療を実践します。
○働く人の健康を守り、治療と仕事の両立を支援します。
○周産期医療を充実させ、未来を担う子供たちを支援します。
○優れた人材を育て、働きがいのある職場づくりを推進します。

初期臨床研修の理念

当院の初期臨床研修の理念は、崇高な信念と人格をもち、基本的な診療能力及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身に付けた自立した医師を育成することです。

初期臨床研修の方針

①患者中心の思考・行動をする姿勢を持つこと。
②救急医療やプライマリケアなどの診療能力を修得すること。
③他の医療スタッフと協調し、安全で質の高いチーム医療を提供すること。
④地域のかかりつけ医と連携し地域完結型の医療を学ぶ。
⑤症例を通じて、診断・治療の結果だけではなく、プロセスを学ぶ。

1. すい臓がんを早期発見するための「Hi-PEACEプロジェクト」を始動

すい臓がんの患者さんは増加傾向にあり、2021年のがん死亡数は4位です。すい臓がんは、早期発見が難しく進行が早い「予後不良ながん」の一つ。リスクファクター（がんを引き起こす恐れのある要因）を知り、適正な受診と検査で早期発見を目指しましょう。

毛利　輝生
消化器内科部長

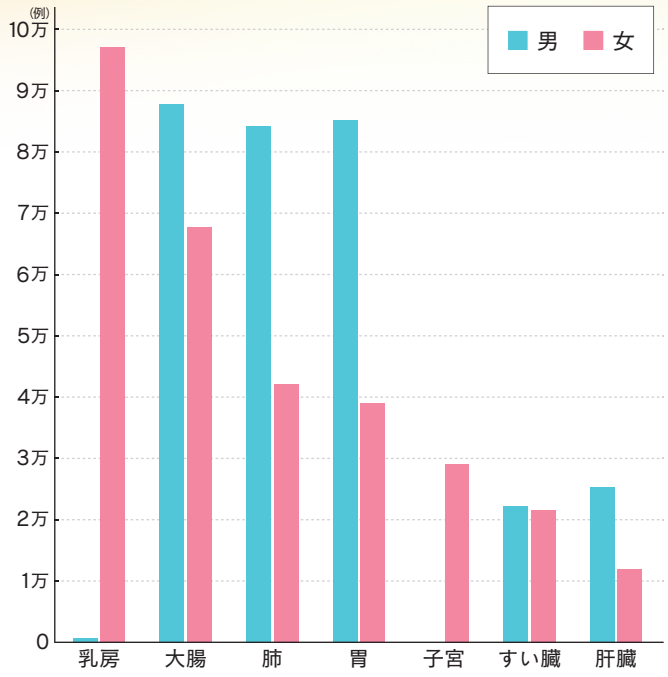
すい臓の役割とすい臓がん

すい臓は胃の裏側に位置する、長さ15cm・幅3cm・厚さ2cmほどの細長い臓器。多数の消化酵素を含む消化液（膵液）を生産・分泌する「外分泌機能」と、血糖値を調整するホルモン（血糖値を上げるグルカゴンと、血糖値を下げるインスリン）を生産・分泌する「内分泌機能」を持っています。

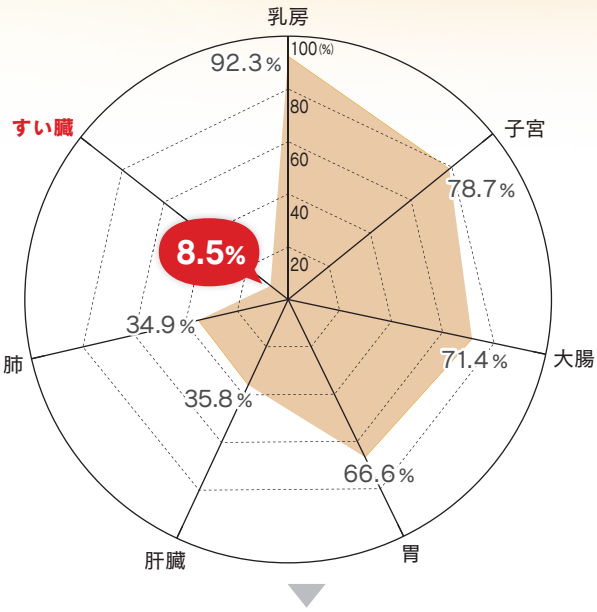
すい臓内で生産された膵液は、すい臓の中央部を貫いている膵管を通って十二指腸に到達し、食べ物の消化を助けます。しかしすい臓内にがんができると膵液の流れが悪くなり、膵管が拡張。消化液が不足するため食べ物が消化・吸収できず、腹痛・食欲不振・体重減少などが起こります。がんが胆管に浸潤すると胆汁の流れが悪くなり、黄疸が出ることもあります。

部位別のがん罹患数と5年相対生存率

部位別がん罹患数（2019年）



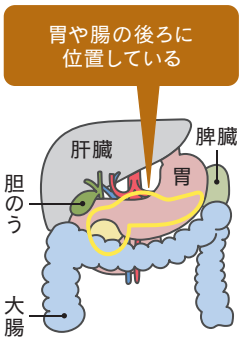
部位別の5年相対生存率（2009～2011年）



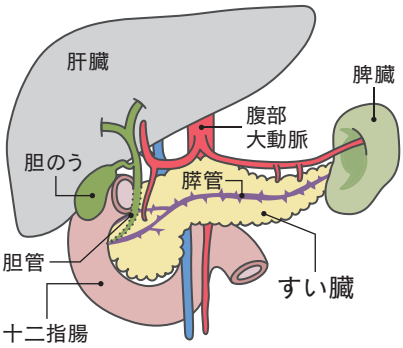
出典：がん情報サービス「がん種別統計情報」

すい臓内にがんができると、すい臓が萎縮し機能が低下します。内分泌機能が低下すると、インスリンやグルカゴンが十分に分泌できなくなり血糖値の調整が悪化。糖尿病の発症や急激な症状悪化を引き起こします。

すい臓の位置



すい臓と周囲の臓器



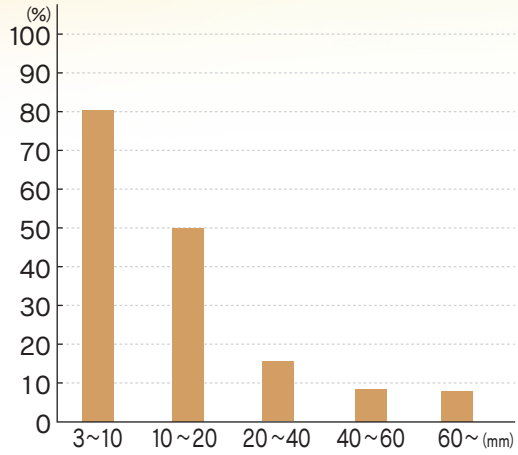
すい臓がんは進行が早く、早期発見が難しい

すい臓がんの5年生存率はわずか8.5％と、他のがんと比べると予後が非常に悪いがんです。

その理由の一つに、進行が早く転移を起こしやすいことがあります。すい臓はとても薄い臓器なので、がんが大きくなるとすぐに、すい臓の外に飛び出してしまいます。すい臓の周りには血管やリンパ管、神経などが取り囲んでいるため、早い段階からリンパ節転移や遠隔転移を起こしやすい特徴があります。また、すい臓がんに有効な抗がん剤は多くなく、薬物療法だけですい臓がんを完治させることはできません。

がんが1㎝未満と小さな段階で早期発見できれば、5年生存率は80.4％と予後が良いことが報告されています。ただすい臓は胃や腸の後ろに位置しており、腹部エコーでは小さいがんを発見できません。小さながんを発見するには、定期的な検査を行うしか方法はありません。

すい臓がんの大きさと5年生存率



すい臓がんの早期発見に有効な検査

当すい臓がん検査の中でも、最も簡便なのが腹部エコーです。小さながんを発見することは困難ですが、膵管の拡張や膵嚢胞（すい臓内部にできた、液体の入った風船のような袋）の存在などが捉えられれば、早期発見につながる可能性があります。

腹部エコーで異常が見つかった場合は、造影ＣＴやＭＲＩ、超音波内視鏡での検査を行います。造影ＣＴ検査やＭＲＩ検査は、ある程度の大きさのがんを指摘できます。超音波内視鏡検査は、先端に超音波装置をつけた内視鏡を飲み込み、胃や十二指腸の内部からエコーを行う検査です。より近い場所からすい臓を観察できるため、造影ＣＴやＭＲＩでは指摘できないような小さな病変を発見することが可能です。

「Hi-PEACEプロジェクト」を始動し早期発見を目指す

すい臓がんの罹患者数は増加傾向にあり、すい臓がんはがん死亡数4位（女性は3位）となっています。広島県では2022年9月より、地域連携を通じてすい臓がんの早期発見を目指す「Hi-PEACE プロジェクト」を始動しました。まずはかかりつけ医が、問診でリスクファクターを確認し、画像検査（腹部エコーやＣＴなど）によりすい臓の状態を確認。必要に応じて中核病院に紹介し、中核病院で精密検査（造影ＣＴやＭＲＩ、超音波内視鏡など）を行います。そこでがんが発見されれば治療を行いますし、経過観察が必要な場合はかかりつけ医へフォローアップするという流れです。

すい臓がんのリスクファクターは、すい臓がん家族歴（親、子、きょうだいに１人以上すい臓がん罹患者がいる）・糖尿病・肥満（ＢＭＩ30kg／㎡以上）・喫煙・大酒家・慢性膵炎など。すい臓がんは進行が早いため、１年に１回の画像検査では「発見時にはすでにステージが進行していた」という可能性もあります。すい臓がんのリスクが高い人は3～6カ月ごとを目安に、血液検査、造影ＣＴ、ＭＲＩ、超音波内視鏡などを組み合わせながら定期検診を行いましょう。

2023.1広島ホスピタルガイドより転載

2. 連携室からのお知らせ

地域医療連携懇話会を開催

日時 2023年9月21日（木）18:30から

会場 呉阪急ホテル 3階 4階
（呉市中央1丁目1―1）

別紙ご案内をご確認いただきますようお願いいたします。

暑中お見舞い申し上げます。

日頃より当院の運営にご協力いただきありがとうございます。
酷暑が続いておりますが、皆様ご自愛のほどお祈り申し上げます。
地域医療連携懇話会で皆様にお会いできることを
心待ちにしております。
今後ともよろしくお願いいたします。

独立行政法人　労働者健康安全機構
中国労災病院
院長　栗栖　薫
患者サポートセンター長　藤本　英作
患者サポートセンター　職員一同

地域医療連携ニューズ第183号

〒737-0193 広島県呉市広多賀谷1-5-1Tel.0823-74-0321Fax.0823-74-6260
中国労災病院 患者サポートセンター https://www.chugokuh.johas.go.jp/regionalPartner/

発行日：令和5年7月31日